

カサブランカのノートルダム寺院

拝啓、時下益々ご清祥の事とお喜び申し上げます。

私は立教高校・立教大学と七年間キリスト教の学校に学びました。特に立教高校時代寮生として三年間寮生活を送り、三年間の柔道部生活と共に毎朝起床後立教高校に付属しているチャペル、(学校とかの施設に付属している教会の事をチャペル、独立した教会の事をチャーチと言います。)に祈りを奉げておりました。学校の教育方針で奉げざるを得なかったので有ります。JICAシニア海外ボランティアとしてここカサブランカに住んで柔道を指導しておりますが、単身赴任で昔の立教高校の寮生・柔道部時代と同じ様な感じも有り、又、拙宅より徒歩五分位の所にカサブランカのノートルダム寺院と呼ばれるカニーサ(教会)が有る為、昔を思い出しつつ別にクリスチャンでは有りませんが、日曜日等にフランス語の勉強も兼ねてこのモロッコ王国随一の大きな教会に通っております。



今回はこのカサブランカのノートルダム寺院と呼ばれており、観光名所の一つにもなっている教会の様子をレポート致します。その前にライド、又はタバスキ等と呼ばれている(犠牲祭)に一寸だけ触れます。

「羊犠牲祭」・「羊祭り」とも呼ばれますが、これは、旧約聖書、創世記で神がアブラハムの正妻が産んだたった一人の息子イサク、コーランではイスマイルを神に生贄として奉げよとのお告げがあり、アブラハムは神を呪い憎みますが、泣く泣く我が息子を神の生贄として、私の見た映画「創世記」では息子の手を縛り祭壇に載せ、息子を刃物で殺して神に奉げようとしています。

其の瞬間神のお告げが有り、「アブラハム、お前の私に対する信仰は良く解った。止めよ。」との事で息子の代わりに羊を殺し祭壇に載せて火で焼いて神に奉げる事になります。私が今から約45年位前に見た映画「創世記」では、近くの木の子に羊がどういう訳か引っ掛かっておりました。

この故事、アブラハムが信仰の証として最愛の息子までも神の生け贄として祭壇に載せた事に因み、ムスリム(イスラム教徒)が99%を占めるここモロッコ王国、私の赴任地のここカサブランカの家長も、その資金力に応じ、羊を最低一頭殺し神に捧げます。これがイスラム教徒である家長の責任です。お金の無い人は羊より安い山羊とか鶏とかを代用しても良い事になってはいます。

でも、羊は必ずオスで羊祭り(タバスキ又はライド)は牡羊にとっては知らず、来年まで生き延びられるか如何かの深刻な問題となります。家長は、家長のプライドに拘わるセレモニー、年に一度の羊の肉の大盤振る舞いとなります。

羊代は一頭三千デルハム(約三万円)前後の値段がしますから、この時期にはスリ・泥棒等々、羊を買う為の金を捻出する為の犯罪も多発する為に、我々JICAのボランティアに対しても例年JICAモロッコ事務所より、この羊犠牲祭の間は移動を控える様にとの注意喚起の連絡メールが来ます。

目端の利いた人達は、羊の値段が高くない祭りの何ヶ月も前から買い込んで、自分で犠牲祭当日迄羊を飼って置くとの事で、物価の高い都市に住んで居る者でも、都合が付けば家で飼う間の餌代とその間の価格差を天秤にかけて、田舎まで羊を買いに出かけるとの事です。それで羊祭りが近づくと、あちこちの家々から、メー、メーと羊の鳴き声が聞こえるとの由です。(私の住んでおりますマンションでは羊の鳴き声は聞こえて来ませんが後日屋上に上がって見ましたら首の無い羊の皮がいっぱい干して有りました。)

関 雅夫さん（平成 23 年 3 月）

平屋ならともかく、アパートの立ち並ぶ地域では室内で飼うとの事で、あちこちから羊の鳴き声が響き渡るとの事です。さて羊祭り当日、羊はそろそろと屠られる場所に連れて来られ、あるいは紐で繋がれて屠られる場所にいます。先の一頭が屠られるのを眺めている後の羊は自分が屠られるのが解っているみたいですが、如何することも出来ません。あつと言う間に引き倒されて喉を掻き切られ、角の付いている頭が胴体から分離されてしまいます。

そして足の先から空気が送り込まれて羊は膨らんで皮と肉とが分離しやすくなります。そして皮を剥がされて足の先から真っ逆様に吊るされて解体される事になります。

私が同僚の柔道師範の家に呼ばれてご馳走になったのは羊の肉の串焼きでしたが色々なバリエーションが有るとの事です。例えば、内臓のバーベキューとか肝臓を脂の膜で巻いた物とか小腸で脂をくるんだ物とか羊肉の串焼きとか(私はこれを頂きました。)。また、炭火で焼いたりもします。残りはタジンやクスクスになったり、長巻物みたいな物を作って後から食べたりもします。足の先の方は毛を取り除いて煮込んで食べたりします。羊の皮は綺麗にされて絨毯になるとの事です。

此の羊犠牲祭はイスラム教徒の祭りで有ります。同じ一神教のユダヤ教・キリスト教・イスラム教を信仰する人々は経典の民と呼ばれます。兄弟みたいな感じなのではないでしょうか？古い順番から、「括弧()内は神の御言葉を伝えた預言者です。」ユダヤ教(モーセ)、キリスト教(イエス)、イスラム教(ムハンマド)、神の御言葉を人々に伝えた預言者に因ってこの世に現れた宗教です。

そして神に生贄を奉げる風習がこの経典の民の宗教に有ると思います。私がキリスト教に則る教育を柱とする立教高校の寮生活で毎朝お祈りしていたチャペルには祭壇があり、此処カサブランカのノートルダム寺院と呼ばれているカニーサ(教会)にもキリストの十字架の前に祭壇が有ります。

キリスト教の場合は何で祭壇が有るのでしょうか？キリスト自身が我々の罪を贖う為に十字架に掛かって死んでくれた。(要するに神に対してキリスト其の物が生贄だと思います。ユダヤ教からの伝統的な同じ経典の民の形態なのではないでしょうか？)

イエスが十字架に掛けられ死んで、我々の罪を贖ってくれたと私がキリスト教の学校に学んでいた時代にチャプレン(キリスト教の牧師)からご教示を賜ったものなのですが、更に何らかの物を神に奉げなければならない事なのではないでしょうか？良く解りません。

詳しい方がおられたらご教示賜れば幸甚です。日本では八百万の神々、祭壇の代わりに賽銭箱が有って元日参り等々でお賽銭を入れております。一神教と多神、手紙等を書く時には欧米は個人の名前が真っ先に来て最後にカントリー、日本では個人の名前が郵便物の宛先への最後に来ます。トラファルガーの海戦でネルソンは、個人個人の責任と義務を求めたのに対し、日本では大東亜戦争末期には神風特別攻撃隊を編成し、隊員達はお国の為と言って爆弾を抱いた零式艦上戦闘機や彗星艦上爆撃機等々と一緒に肉弾となって敵艦に突っ込んで行きました。大英帝国に対して各人の個人個人の責任を求めたネルソンに対して日本では「お国の為・会社の為」とかの「滅私奉公」と言った方が適切なのかも知れません。色々考えていたらかなり脱線してしまいました。

さて、この羊犠牲祭は日本の正月みたいなものの様です。車も疎らにしか走っておりません。何時もは信号が変わると直ちに前の車に発進を促す騒々しい警笛の音も無く、学校も休校で、スーパーも閉店です。喫茶店は店を開けている所も有ります。

勿論、私の勤務先の柔道の道場もお休みです。柔道よりも何よりも先ずはアッラー優先なのがここムスリム(イスラム教徒)社会なので有ります。道路上ではここかしこに羊を焼いている煙が立ち昇ります。と、かなり羊犠牲祭の話が長くなってしまいました。

ここからが本題です。カサブランカ市内のドゥーマウスと言う所の交差点脇に建物の一番上部先端に十字架を翻している、美しい白く高い教会(カニーサ)が聳え立っております。

関 雅夫さん（平成23年3月）

紺碧の青空に十字架を掲げた白い大きな建物が鮮やかに浮び上がります。幅約25メートル奥行き約80メートル。高さ約35メートルのモロッコ王国随一の立派な教会です。礼拝は牧師がフランス語で行っています。日曜礼拝の始まりは午前11時です。美しい賛美歌を聖歌隊が歌い、歌と共に礼拝が行われます。



歌と共に、神の言葉で有る大きな聖書を頭上に掲げた牧師を先頭に礼拝を主導する関係者達が十人前後教会内に入場し、礼拝が始まります。牧師や当日のスピーチを行う人達がキリストの十字架の前に一礼して登壇します。日本のお辞儀と同様に頭を下げて登壇の前と後に一礼をします。「アーメン」=「誠に」という言葉は世界に普及した柔道の一本・技あり・押さえ込み・待て・それまで等と同じく世界の共通語なのでしょうか。ここでも同じ「アーメン」です。柔道の指導に行くタクシーの中等でイスラム教の聖典コーランが美しい調べと共に流れているのを良く聞きますが、ここカサブランカのカニーサ(教会)でも礼拝時間のかなりの部分を聖歌が占めています。



礼拝の途中で寄付金集めが有ります。(寄付金を入れてもらう籠を持った二人が左右に分かれて集金します。)お金は何処の世界でも有効な様です、キリスト教関係の冊子のセールスも、牧師が、これが何十ドルハムですとか言って集会者に売り込みをはかっています。

それから薄くて丸いウエハースの様な食べ物を礼拝に集まった人達に配ります。これは日本の教会に礼拝した時には味わえなかった事です。礼拝の途中で近くにいる人や牧師と握手したりして交流を計ります。礼拝に集まって来る人達の約八割は黒人、残り約二

割が白人で私みたいなのは極稀、例外的な存在です。

ここでは日本の教会と同じく冠婚・葬祭も取り行われます。結婚式には教会内部中央に赤い絨毯が敷かれ、又葬式には日本の霊柩車同様に黒塗りの車が教会敷地内部の教会出口で棺を待っております。

昨年クリスマスイブの前に私に「私はムスリム(イスラム教徒)なのですがイエスが好きでこうしてクリスマスの飾り付けをしています。」と私に語った女性がキリスト生誕の情景での聖母マリア様や父親ヨセフ、また、遙々東方から馳せ参じた三人の学者、そして生まれたばかりのイエス、ロバ等の像をセットしておりました。これ等は驚いた事に一月終りまで教会祭壇の近くに飾って有りました。この国の殆どの方はムスリム(イスラム教徒)なのですが、日曜礼拝にはかなり大勢の人達が集まります。ざっと五百人位はいるでしょうか、かなりの大人数です。売店はムスリムの黒人が担当しております。モロッコ王国はゴミの散乱や物乞いが多いのですが、日曜礼拝当日には此の教会の出入り口には片腕を失った人達とかが居り、礼拝に集まった人達からの施しを受けています。



クリスチャンになる人達は礼拝に集まった会衆の前で牧師からクリスチャンの証を授けてもらいます。(十字架を握って牧師から頭に手からクリスチャンとなる霊波でしょうか？が注入されます。)また、バプテスマと高校時代に聞いていた洗礼を会衆の前で受けるのも見ました(これは牧師になる人です。)

関 雅夫さん（平成 23 年 3 月）

教会内部には美しいステンドグラスが飾られて、荘厳な雰囲気を醸し出します。また、パイプオルガンもありますが奏者がいないのか聖歌隊の歌だけです。観光バスも頻繁に停車しており、数多くの観光客もこのカサブランカのノートルダム寺院と呼ばれる大きな教会を見に訪れます。私は21世紀最大の建築物の一つと言われる、カサブランカ市内の海に面して建てられている壮大なハッサン二世グランモスク(大寺院)の内部に入りました。

中はキリスト教会の様な十字架やイエスの像等は一切有りません。内部は美しいですが、ガランとしております。偶像崇拜の禁止なのでしょう。その中でアッラー(神)・アクバル(偉大也)等とムスリムの皆で祈りを奉げます。ここモロッコ王国随一の教会内では聖歌と共に神を讃え、同時に集まった参加者が相互に、また牧師と交流を交わして散会となります。しかし、考えて見ると地球上の数多くの人達がこうして神を賛美し、且つ神を信じて生きております。何故か？様々な理由からなのでしょうが、其の多くは人智では解決出来ない事が余りにも多いからなのかも知れません。何でこの世に生まれて来たのか？人生不可解と言って明治時代華嚴の滝から飛び降り自殺した藤村操の様に、幾ら考えたって解らない事が余りにも多いからなのかも知れません。明日何が起こるか誰も正確には解りません。しかし、私みたいにフランス語の勉強がてら通っていても何か気分的には悪い気分には為りません。

聖歌を歌い集会者の皆と交流し、牧師とも握手を交わして交流して、皆と同じ食べ物を少々ですが口にして散会すれば、孤独な老人の癒しにも為るでしょうし、また、明日への希望や英気が養われるものかと思えます。ムスリムは一日五回、(原則として日の出前・日の出後・お昼頃・日没前・日没後)のお祈りをします。これも良い運動で美しい調べのコーランに依っても、心身共に健康が維持出来ると思えます。

それでは、皆様、ここモロッコ王国のキスチャンやムスリムの人達に負けない様に心身共に健康で過ごせます様お体ご自愛の上元気で過ごして下さい。ここ赴任地カサブランカより皆様のご健康とご健勝とを願っております。

皆様お元気で、敬具

追伸 3月11日、日本を襲った大地震・津波の被害の凄まじさは眼を覆いたくなります。それに伴う原子力発電所の被害等々、ここモロッコ王国カサブランカでインターネットよりニュースを見て胸を痛めております。祖国の一日も早い復旧と皆様の心の平安をここカサブランカの教会で祈っております。
人智を超えた自然災害の凄まじさを感じています。日本の皆様お元気で。

